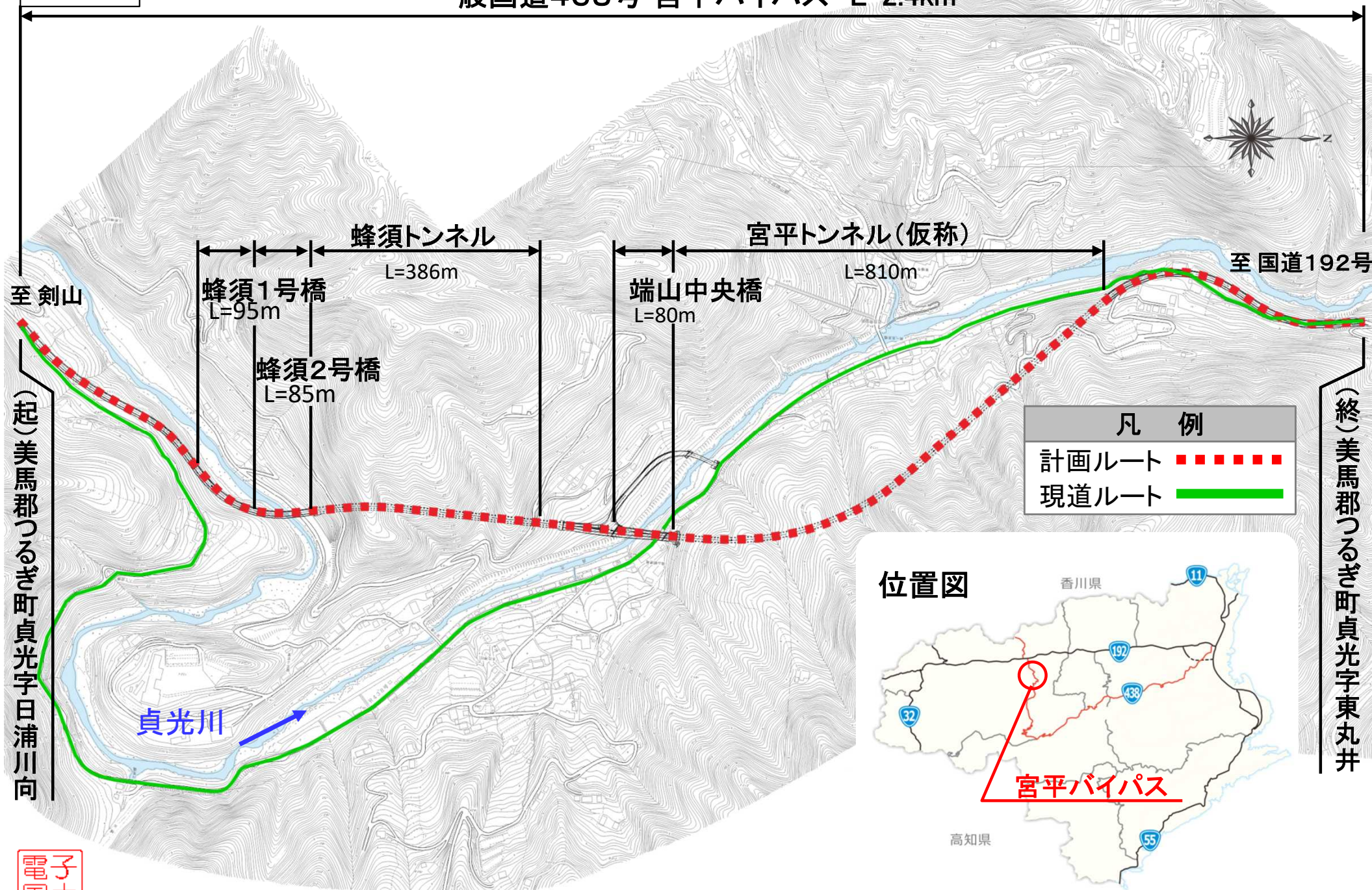


再評価【番号2】 道路整備課

一般国道438号
宮平バイパス

平面図

一般国道438号 宮平バイパス L=2.4km



平面図



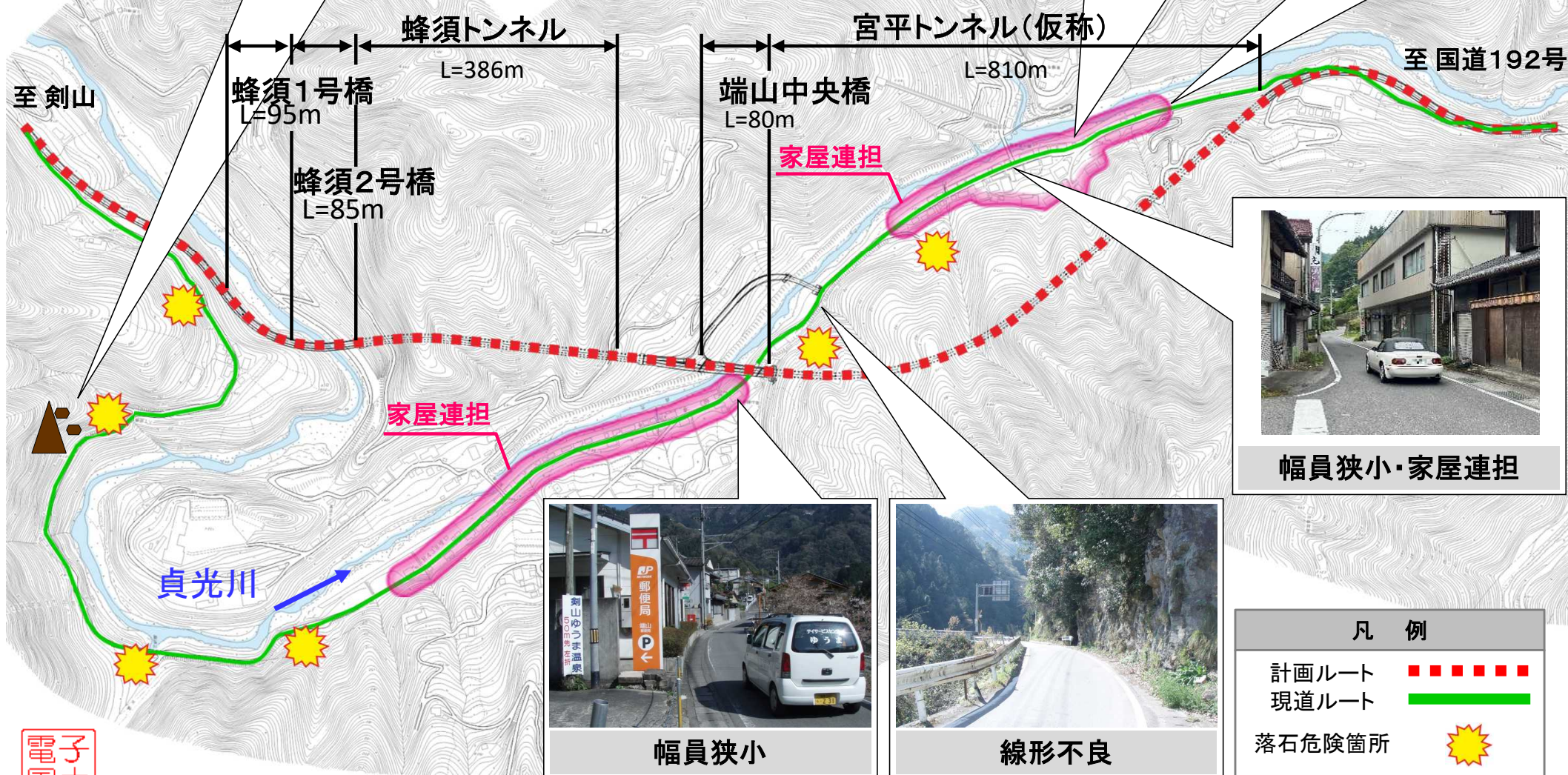
H22.7.20崩落状況

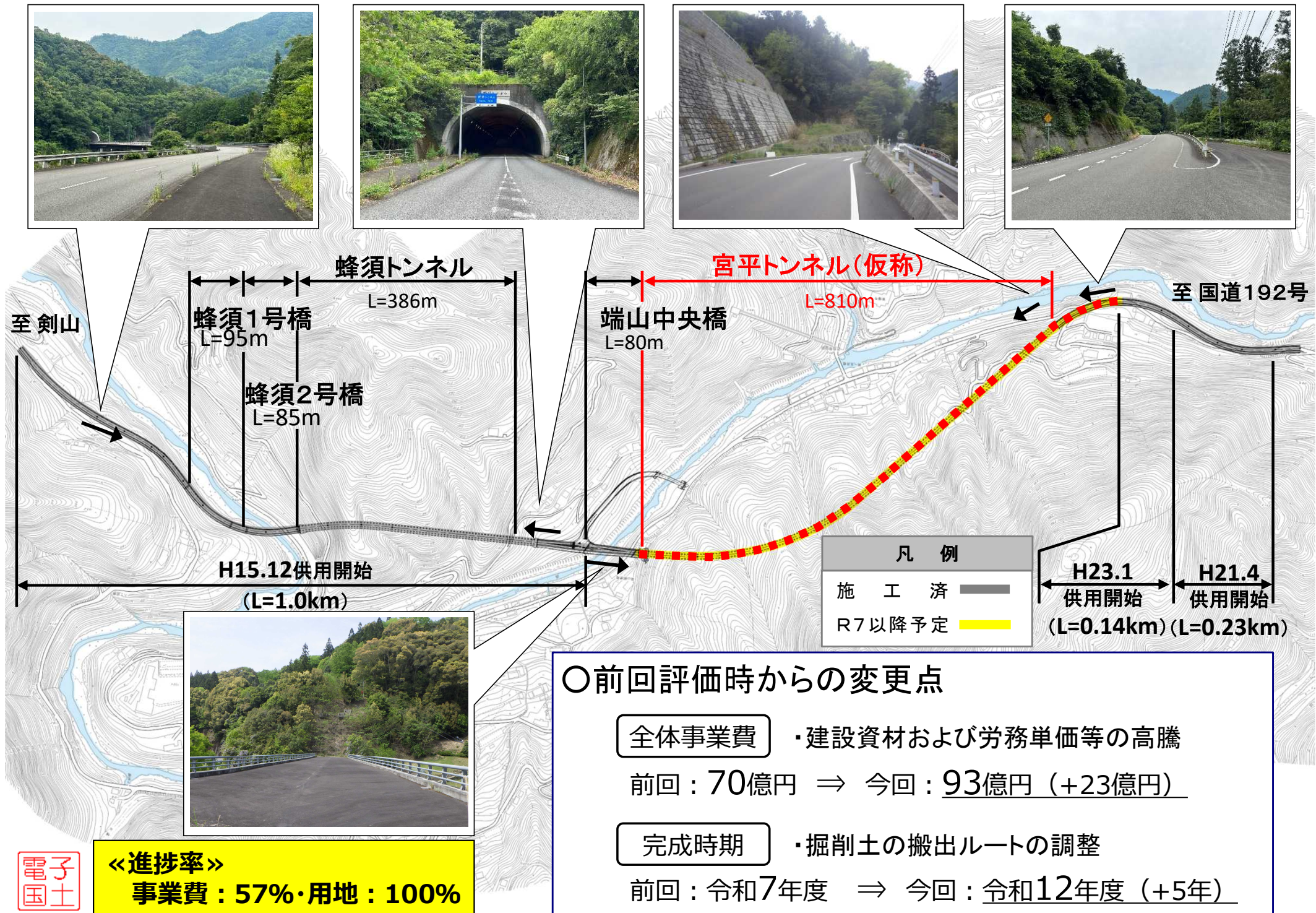


幅員狭小・家屋連担



幅員狭小・家屋連担





貨幣価値換算可能な整備効果

①従来の
3 便益

- ・走行時間短縮便益
- ・走行経費減少便益
- ・交通事故減少便益

計 **145.3** 億円
(現在価値化後)②その他
の便益

- ・環境負荷低減便益 : 0.4 億円
- ・救急救命率向上便益 : 17.6 億円

計 **18.0** 億円
(現在価値化後)① + ②
便益計 **163.3** 億円
(現在価値化後)

費用

- ・事業費
- ・維持管理費

計 **148.8** 億円
(現在価値化後)

その他便益を含む **B / C = 1.1**

貨幣価値に表れない整備効果

防災・減災

■ 緊急輸送道路の強化

- ・緊急輸送道路ネットワークの形成に寄与



- 道路の走行性が向上
- リダンダンシー確保

■ 災害拠点施設へのアクセス強化

- ・災害拠点病院、防災拠点へのアクセス性が向上



地域防災能力の向上

安全・安心

■ 安全・安心の確保

- ・線形不良区間を解消・家屋連担区間を避けた計画



地域住民の安全・安心の保証

産業振興

■ 観光地へのアクセス強化

- ・「にし阿波～剣山・吉野川観光圏」への寄与
- ・増加する外国人観光客への周遊ルート構築



観光を中心とした産業振興

①構造物の概要

名 称：宮平トンネル（仮称）

諸 元：第3種2級 $V=50\text{km/h}$ $L=810\text{m}$ $W=6.5(9.5)\text{m}$

事業費：●億円

※事業費について、今後の工事発注を見据え非公開にしています

②大規模構造物の費用対効果(B/C)

$$B/C=0.9$$

③事業の必要性・重要性

- ・第2次緊急輸送道路に指定
- ・能登半島地震での被害事例、南海トラフ地震臨時情報の発表を受け
災害発生時の途絶の回避など、事業の緊急性が増している
- ・家屋連担区間の迂回による地域内の安全な通行の確保
- ・観光地へのアクセス向上による地域経済の活性化

⇒必要性・重要性が高まっている

【防災・減災】災害に強い道路ネットワークの構築

■ 緊急輸送道路ネットワークの強化

- ・幅員狭小の解消・落石危険箇所の回避

➡ 走行性・安全性の向上により、
物資輸送等が円滑に

■ 災害拠点施設へのアクセス強化

- ・災害拠点病院である町立半田病院など、
災害拠点施設へのアクセス性が向上

➡ 地域防災力の向上により、
災害への確実な備えに



【安全・安心】地域内の安全な通行の確保

■ 安全・安心の確保

- ・家屋連担区間内を通過している幅員狭小な
現道を迂回

➡ 地域住民の安全性が向上

家屋連担区間の通行状況



【産業振興】地域経済の活性化

■観光地へのアクセス強化

・にし阿波～剣山・吉野川観光圏内のアクセス性向上

➡観光を中心とした地域振興

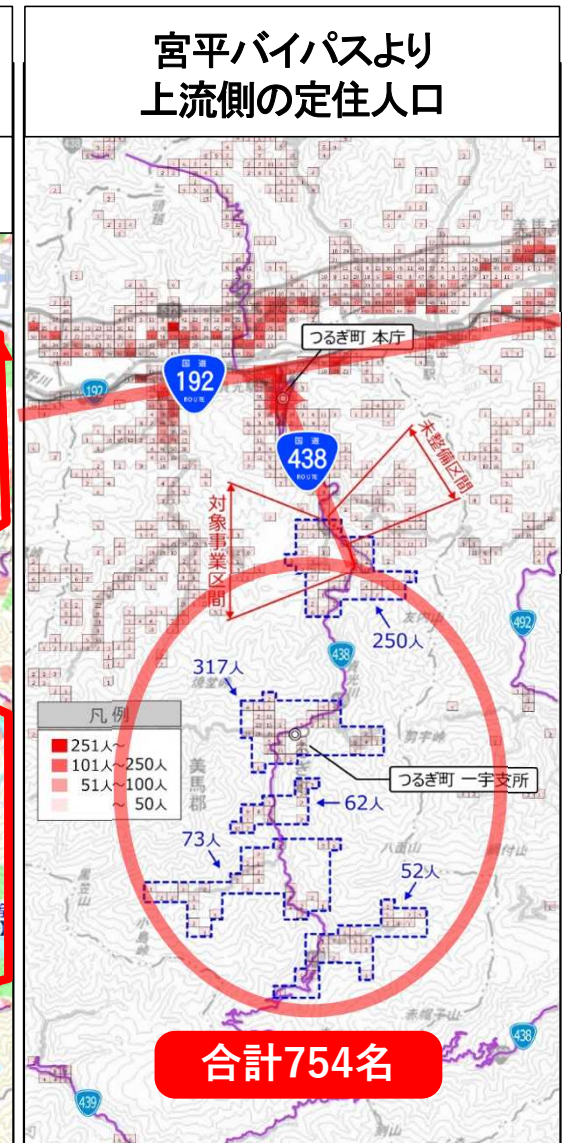
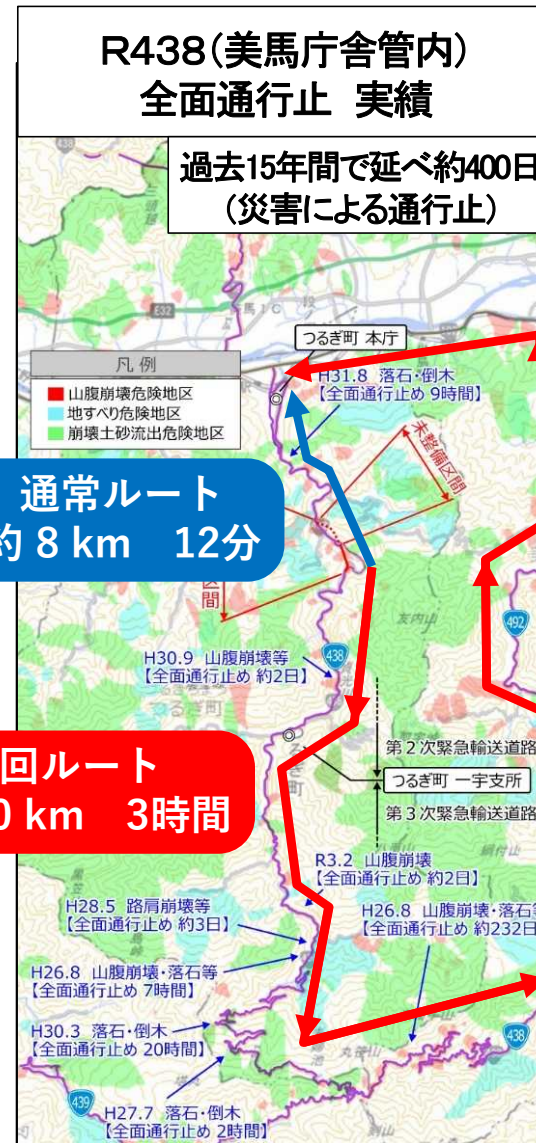


能登半島地震における道路途絶発生を受けて

- 能登半島地震では
家屋倒壊による道路の途絶が多く発生



- 本事業区間においては
 - ・狭隘な道路
 - ・築年数の経過した家屋が連たん
 - ・石積みによる造成が多い



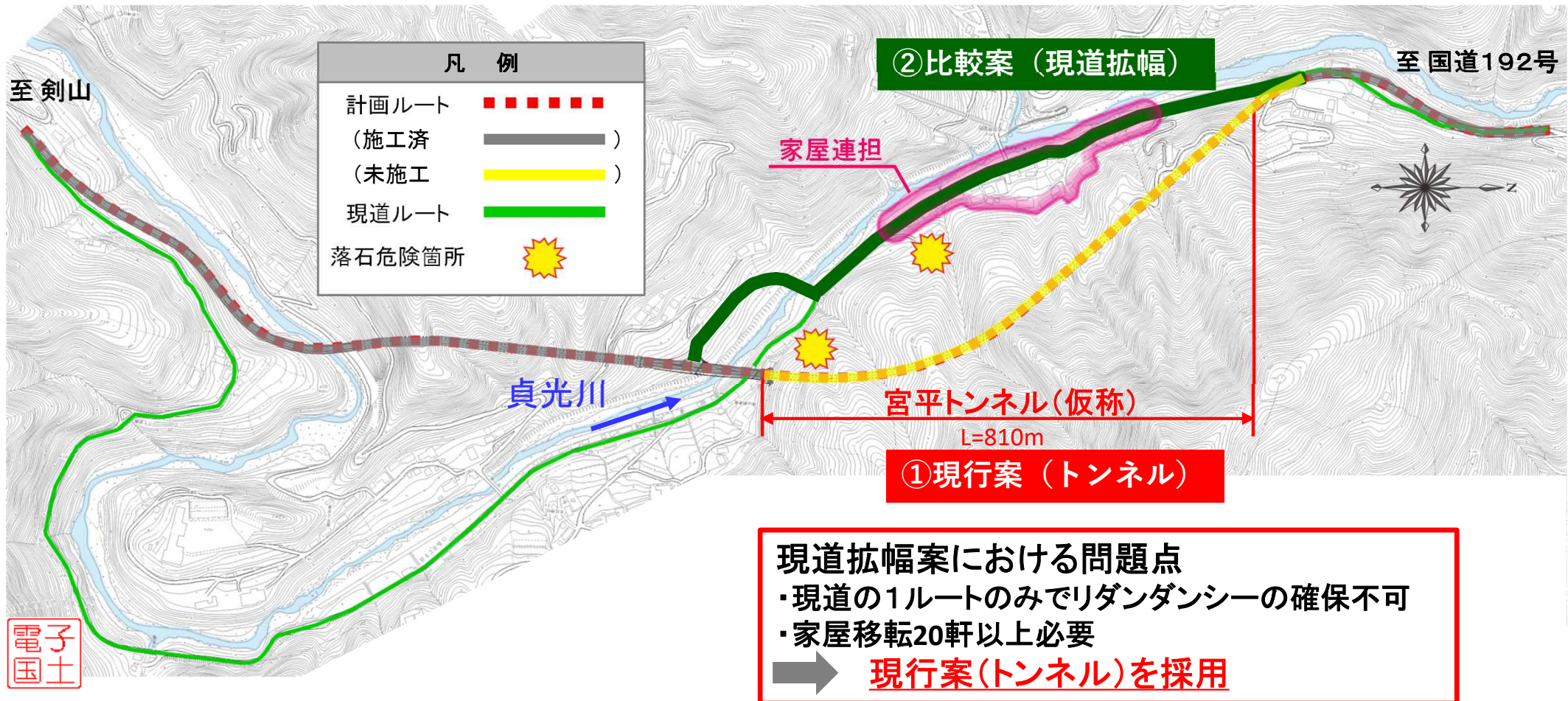
家屋倒壊による道路の途絶の可能性
つるぎ町民の約1割(754名)への
迅速な支援が困難に



バイパス整備により途絶を回避

比較検討表（現行案・比較案）

対応案	①現行案（トンネル）	②比較案（現道拡幅）	③比較案（対策無し）
渋滞対策	○（改善される）	○（改善される）	×（離合待ちで渋滞発生）
リダンダンシー	○（現道とバイパスの2ルート）	×（現道の1ルートのみ）	×（現道の1ルートのみ）
工事中の現道交通への影響	○（工事用車両の通行程度）	×（迂回路の無い時間通行制限）	－
地元への影響	○（家屋移転不要）	×（家屋移転 20軒以上必要）	－
総合評価	○	×	×



コスト縮減案

対応案	トンネル案（歩道付き）	トンネル案（歩道無し）
標準断面図	歩道付き 10.5m	歩道無し 8.0m
自転車・歩行者	トンネル内通行	現道(集落内)通行
事業費	●億円 （現単価：建設資材・労務単価の高騰） 前回：●億円	●億円
総合評価	○	◎

断面縮小

コスト縮減

※事業費について、今後の工事発注を見据え非公開にしています

大規模構造物の検証 評価分類「Ⅰ類」

トンネル断面の縮小など、コスト縮減を図った上で
宮平トンネル(仮称)の整備を推進する。

■今後の対応方針（案）

事業継続